

「きれいごと」の中に ある未来

岡山県立倉敷工業高等学校 資格検定指導室 資格検定NEWS



「きれいごと」という言葉の響きは良くない。「きれいごとを言う」は賛美ではなく、非難の意味合いが強い。「きれいごと」は本心とは乖離した、「上辺を取り繕う」意図の被り物であるかのようである。

しかし、現状を変える力は、「きれいごと」に秘められているのではないか。最終的に受け入れられる提案の根底は、「きれいごと」ではないのか。

新たな視点と目指す方向性

そんな事を言っても、所詮は無理。もっと現実を見てよ。と返される経験はないか。「忌憚のない意見を聞かせてほしい。」との言葉を受けて、提案してみたら、それは「きれいごと」。そんなことが実現するはずがない。そんなことが通る訳がない。と言われる。

しかし、現状を変化させる原動力は実は「きれいごと」ではないのか。「きれいごと」が最終的に皆を説得させるに至る出発点ではないのか。

私達が社会生活を営み、他者との関わりなしでは生活を営むことができないのであれば、共通の「出発点」は理想を踏まえたあるべき姿を具現化した「きれいごと」にあるのではないのか。

「本音を言え」とは、未来を否定することではなく、未来をすこしでも心地よくするための方策を、自分が今置かれている立場から発言することだとすれば、「きれいごと」は出発のキーワードである。